

令和7年度 第1回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 令和7年6月25日(水)
午後2時00分から午後3時00分
場 所 木更津市立中央公民館

出席委員 中島緑委員(会長)、地曳委員(副会長)、平野委員、坂巻委員、
長田委員(宇治原児童福祉司代理出席)、丸委員、大滝委員、
鈴木義信委員、中島教予委員

- 1 開会
- 2 まなび支援センター所長挨拶
- 3 協議
 - ①令和7年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について
 - ②情報交換

〔事務局から説明〕

本協議会の委員の皆様におかれましては、昨年度からの引き続きの委員であるが人事異動により今年度、委員の交代をされ新しく委員になられた方が3名いる。

任期は木更津市まなび支援センターの設置及び管理に関する条例 第5条第3項により、昨年度から引き続きの委員の方と同じく、令和8年5月31日まで。

本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公表されているが、本日の傍聴人はなし。また、会議録は木更津市のホームページ上で公開され、会議中は録音機により会議を録音する。

会議開催にあたり委員14名のうち、9名の出席により会議の成立を報告。

この会の趣旨は青少年健全育成に係る取り組みを行っている本センターの運営等についてご意見を頂くと共に、関係機関等の取り組みを紹介頂き、連携して青少年健全育成を図るための会議である。

協議に入る前に、まなび支援センター所長より挨拶。

所長あいさつ

〈事務局〉

木更津市まなび支援センター管理規則 第3条第5項の規定によりまして、中島会長が議長となる。

〈中島会長〉

それでは、協議に入ります。協議事項の①令和7年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について、事務局説明願います。

令和7年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について説明

〈所長〉

私より、令和7年度の木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動方針について、ご案内させていただきます。

資料の2ページをご覧ください。

運営方針といたしましては、「家庭、地域、学校、警察、南房総教育事務所生徒指導班、児童相談所等の関係機関との連携を密にし、青少年の非行防止と健全育成を図る。」とさせていただきます。

具体的には、「相談活動」、「街頭指導」、「インターネット環境の利用」、「関係機関・団体との連携」、「啓発活動」の5つの取組を展開してまいります。

まず、相談活動についてですが、幼児期から青少年に至るまでの相談活動の充実を図ります。

まなび支援センターでは、教育相談教室、あさひ学級、青少年・子育て相談等、それぞれの発達段階、対象となる子ども達の年齢に応じた相談活動を行っております。青少年指導に関わる、「青少年・子育て相談」については、昨年度、電話相談が68件、来所相談が11件、メール相談が25件、ございました。

子どもの発達の事、子育てやしつけに関することは、こども発達支援課の新設とともに減少し、不登校、登校しぶり、精神不安に関することが主な相談内容となっております。なお、相談については、専門機関の紹介等も併せて行っております。今後も、相談技術の向上を図りながら、継続してまいりたいと考えております。

次に、街頭指導については、昨年度、青少年補導員による各地区での活動が160回、のべ412人、所員による活動が23回、のべ46名、補導員および所員合同の活動が2回、のべ33名、合計185回、491名の街頭指導を実施いたしました。

今年度も各地区青少年補導員によるきめ細やかな街頭指導に加え、所員は青パト（青色回転灯を装着した公用車）を使用した広範囲の街頭指導を、原則、週1回程度行います。市内の小中学校周辺、または、不審者情報等があった地域付近を中心にパトロールを行います。

JRの乗車マナー指導につきましては、近年の子ども達の動向を踏まえ、昨年度は列車には乗車せずに、青少年補導員と君津地区高等学校の生徒指導の先生方と合同で、11月に駅周辺の指導に加え、啓発活動も同時に行うことができました。

また、昨年の県下一斉合同パトロールは夏の運動期間に、地区ごとに補導員がパトロールを実施いたしました。今年度も、港まつりに限らず、地元祭礼や地区納涼大会など、地区ごとにきめ細やかに実施することとなっています。

情報活用能力の育成につきましては、便利な一面、インターネット上の問題に巻き込まれる事件も後をたちません。

子どもたちがICTを安全に活用するため、インターネットリテラシーの向上を目指した啓発活動を実施していきます。

各種関係機関、団体との連携につきましては、本会のような各種連絡協議会での情報交換、関係各所との連携、協力を継続してまいります。

近年、街の中で、子どもの姿がなかなか見られません。青少年補導活動においても、社会の流れを注視しつつ、その時代に合わせて柔軟に活動を変化させていくよう、検討してまいります。

以上で、まなび支援センター青少年指導関係活動方針について、ご説明を終わります。

（質疑・意見）

〈中島会長〉

私から、電話相談の事で質問です。「相談活動に関する諸機関との連携」とありましたが、連携先というのは具体的にはどこか。

〈難波所長〉

学校の関係は学校教育課、子育て関係は子育て支援課など、市の他部署へ連携する。他にも、精神科の医院の紹介や、有料の「心の相談室」の紹介をすることもある。

〈中島会長〉

「相談窓口の一本化」することが良いような感じもありますが、このように、まなび支援センターにも相談できる窓口あることも重要だ。話しやすい相談窓口にしてほしい。

〈平野委員〉

昨年度11月に、列車に乗車せずに啓発キャンペーンを行ったとのことだが、どのくらいの時間帯で行い、人数と啓発内容を教えてください。

〈難波所長〉

列車内で騒ぐ高校生がいない事から、一昨年から列車に乗車せずに木更津駅周辺で啓発物資を配布するマナー指導をしている。

昨年度は、15時半から16時半くらいの時間帯で行った。高校生の下校時間帯であり、木高・東高の生徒や、私立高校のスクールバスを降りた生徒たち、また、内房線を降りた生徒など大勢の高校生に声をかけることができた。啓発内容は、SNSの使い方や薬物乱用防止など。

この JR マナー指導とは別に、中学校区ごとに補導員がパトロールを実施している。時間は地区ごとで決めているが、概ね20時頃に実施してくださっている。

（質疑・意見）

〈中島会長〉

他にご質疑等ないようですので、次に 情報交換に移ります。それぞれの委員の立場から子どもたちの様子についてご意見をいただきたいと思います。

〈中島会長〉

私は、普段は清和短期大学で保育士や幼稚園教諭になる学生に指導をしている。短大生なので未成年ではないが、20 歳前なので飲酒や喫煙などは指導の対象である。現在、頭を悩ませているのが、高校生・中学生と同じように、学生が大人には見えないようなスマートフォンの SNS などのアプリで、見ず知らずの誰かと連絡を取りあったりして、実際に会うなどという事。現在は「推し活」と言って、好きなアイドルなどについて情報交換をして、コンサートに行くときに初めてその場で待ち合わせをして会う、という事がある。大人から見れば危ない場に行くように聞こえるが、冷静に楽しんでいるという学生も多数いる。

学生に関しては、継続して闇バイトや SNS の注意点などについて、授業の中で指導を強化しているところである。

〈平野委員〉

木更津東高校の定時制は、以前は中学校卒業後すぐに就職した子が、昼間仕事をしながら夜勉強するために通っていた学校であったが、現在は様変わりしている。友人関係などでつまづいた子がまなび直しとして通ってくることが多い。夜間部の人数としては、県下で最も多く現在の在籍人数は97名。昨年度入学生は33名で多い。外国籍の子も入学している。生徒指導では、全日制と違い就職している生徒も多いので身なりの規則はない。法律に触れるようなことは指導している。下校が21時を過ぎるので、その点が心配ではある。

〈坂巻委員〉

紅陵高校の生徒指導をしている。本校は、5月6日にJRの乗車指導をした。スマートフォンを見ている生徒が多くて静かではあるが、その反面周囲が見えていない生徒が多い。お年寄りや妊婦が立っているのに気づかない生徒がいた。

自転車通学者にヘルメットの着用を義務付けた。

〈長田委員代理：宇治原児童福祉司〉

今日は、長田が出席できなかったため代理出席の宇治原です。児童福祉司として児童相談所に関わっている。さきほどから、スマートフォン関係の話がありますが、スマホの使い方がきっかけとなる問題ケースが多くある。

発達支援の必要な傾向のある子どもが親からの虐待につながるケースなどもある。

いずれも、児童相談所で関わり、他機関とも連携していく。

〈丸委員〉

今年より、こども未来部こども家庭支援課として体制強化をした。子ども家庭センターができ、妊娠期から連携することとなった。

昨年度相談は546件で令和5年度より増加した。虐待相談が増加したのは学校や保育施設からの早めの相談が増えてきていると認識している。外国籍の人からの相談も増えている。

〈大滝委員〉

民生児童委員は現在定員250人のところ220人が委嘱されていて、定員に達していない。登下校の見守りや子ども食堂のスタッフをしたり、学習支援のお弁当作りを手伝ったりしている。福祉体験のボランティアもしている。相談事があれば関係機関につなぐ役割をしている。

〈鈴木義信委員〉

木更津警察署少年警察ボランティアは、生活、防犯指導を防犯指導員として、月2回午後7時頃から木更津駅・袖ヶ浦駅周辺の街頭指導を行っている。港まつりのパトロールも行う予定。

コミュニケーションの交流事業としてタッチアップという名称で、ソフトバレーボール大会

をしている。

〈地曳副会長〉

木更津市青少年補導員連絡協議会の会長をしている。私自身は補導員8期16年目、会長は2年目となる。67名の補導員が「青少年に愛の一声を」を合言葉に月1回各地区でパトロールを実施している。昨年度、問題行動はなかった。木更津高専で薬物乱用防止教室を実施した。

年2回補導員研修を実施している。

街頭指導では子どもは見かけないが、困っている青少年を見つけて声をかける活動をしていく。

〈中島教予委員〉

木更津市PTA連絡協議会から保護者の立場で参加している。スマートフォンの保有率が年々低年齢化していてコミュニケーションの希薄が心配だ。こどもは、TikTokのように短い動画を好み、YouTubeでもショート動画を見ている。長時間、集中できないのではないと思う。「キモイ」「ウザい」など言葉選びも心配だ。

〈中島会長〉

幼児教育で全く同じ話がある。幼稚園の先生の言葉の使い方など、指導を考えている。

〈事務局〉

次回の会議について説明。

第2回は、令和8年2月17日の午後に木更津市役所朝日庁舎を会場に開催する。